



葛飾北斎「富嶽三十六景 山下白雨」



歌川国芳「人をばかにした人だ」



菊川英山「傘美人」



歌川広重「東海道五拾三次之内 庄野」



無款「黒船の図」



歌川国芳「相馬の古内裏 滝夜叉姫と大骸骨」

◆関連企画

◎実演／よみがえる北斎「神奈川沖浪裏」を摺る(於展示室、要チケット)
8月10日(日) 午前10時、午後2時より(実演時間約1時間30分)
葛飾北斎の名作「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」が、解説を交えた実演で現代によみがえります。その製作過程と摺師の技をお楽しみ下さい。
協力／アダチ伝統木版画技術保存財団

◎家族で楽しむ解説会(午後2時より、於展示室、要チケット)
8月3日(日)、17日(日) 学芸員が展示作品を楽しく紹介します。

◎同時開催
所蔵品によるテーマ展「寄贈作品展」(本展チケットでご覧いただけます)

◎次回企画展
教科書から飛び出した名画たち「国立美術館巡回展」
2008年11月14日(金)～12月14日(日)



江戸時代、庶民に深く愛され続けた浮世絵には、当時の人たちの美意識や好み色が濃く反映されています。なかでも1800年代以降の幕末期には、目まぐるしく変化する世の中や、繁栄を極めた町民文化を背景に、浮世絵はかつてないほどの盛り上がりを見せました。旅行ブームによる風景画の出現や、魔界小説・幽霊芝居に影響された妖怪・武者絵。幕府政治を批判した風刺画や、黒船来航に刺激された開国絵など、美人画と役者絵がほとんどであったそれまでの時代に比べて、バラエティあふれた様々な作品が数多く生まれました。現代でも人気の高い葛飾北斎や歌川広重・国貞・国芳らといった絵師たちが腕をふるったのもこの時代です。

本展は、夏休み特別企画として開催するもので、中右瑛(なかう・えい)氏(国際浮世絵学会常任理事)のコレクションから、幕末期の浮世絵約150点を厳選し、「装いとお洒落・女ごころの美人画」「シャレとユーモアの戯画・漫画」など12のコーナーに分けて展示します。この夏、江戸の粋と奇想天外でアイデアあふれる浮世絵の世界をお楽しみ下さい。



交通のご案内

- コミュニティバスすまいる/JR福井駅前(西口)のりばより、田原・文京方面線約10分「県立美術館」下車。
- 京福バス/JR福井駅前(西口)10番のりばより、福井病院・藤島線(26系統)約10分「藤島高校前」下車(※ただし土日祝は運休)。
- 車/JR福井駅前より約8分、北陸自動車道福井北ICより約15分。
- 福井鉄道・えちぜん鉄道/「田原町駅」下車徒歩約8分。

※ご来館の際は、できるだけ公共交通機関をご利用下さい。お車の際はアイドリングストップにご協力下さい。

福井県立美術館

〒910-0017 福井市文京3-16-1 TEL:0776-25-0452 FAX:0776-25-0459
<http://info.pref.fukui.jp/bunka/bijutukan/bunka1.html>